

急性重症患者をケアする看護師の
倫理的感受性を備えた実践尺度の信頼性・妥当性の検証
Verification of Reliability and Validity of the Scale
for Assessing Nursing Practice with Ethical Sensitivity among Nurses Caring
for Acutely Critically Ill Patients

研究代表者 前 医療法人社団公仁会大和成和病院 集中ケア認定看護師
急性・重症患者看護専門看護師
前 湘南鎌倉医療大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程
日本赤十字看護大学看護学部 成人看護学領域 助教 岩井真奈美

キーワード：急性重症患者 倫理的感受性 看護実践 信頼性 妥当性

I 研究目的

ICU に入室する患者は限界に近い我慢をしながら死を身近に感じており、看護師は患者の心情に気づき、心のケアをする重要な役割がある。しかし、急性重症患者の特性を捉えた看護師の倫理的な実践を評価する尺度は存在しない。そのため、まず「急性重症患者をケアする看護師の倫理的感受性を備えた実践尺度原案 42 項目」を作成した。本研究の目的は、この尺度の構成概念妥当性、基準関連妥当性、信頼性を検証することとした。

II 研究方法

1 研究デザイン

方法論的デザインで実施した。

2 データ収集方法

母集団は、急性重症患者をケアする臨床経験が 4 年以上のわが国の看護師とした。標本は、集中治療専門医研修施設、および救急・集中治療に関する管理料を算定する医療機関の看護部長と看護単位責任者を通して協力を依頼し、承諾を得た救急・集中治療領域に所属する 1468 名

の看護師を対象に、郵送法を用いて 2023 年 10 月から 2024 年 3 月にデータ収集を行った。

3 分析方法

尺度の妥当性は、項目分析にて項目を整理し、探索的因子分析および確証的因子分析による構成概念妥当性の検討、併存妥当性と弁別妥当性の検討による基準関連妥当性を検証した。尺度の信頼性は、テスト-再テスト法による安定性と Cronbach's α 係数の算出による内的一貫性の側面から検証した。

4 倫理的配慮

所属施設看護部の承認、および湘南鎌倉医療大学研究倫理委員会の承認（承認番号 040、040-変更 1）を受け、研究を実施した。

III 結果

1 対象者

全国の救急・集中治療領域に勤務する 1065 名の看護師から回答が得られた。そのうち 1 項目以上の欠損がない 984 名の回答を分析対象とした。

2 妥当性の検討

探索的因子分析の結果、「重症であっても自立を意識した支援」をはじめとする4因子16項目が抽出された。確認的因子分析の結果、モデル適合度は、GFI 0.939、AGFI 0.916、CFI 0.944、RMSEA 0.064であった。

併存妥当性は、外的基準である「看護師の倫理的行動尺度改訂版」(大出, 2019)の回答結果との相関係数から確認した。本尺度の総得点および4因子のすべてと、看護師の倫理的行動尺度改訂版の【善いケア】に中等度の正の相関を示した。

臨床経験4年以上と1年未満の群でt検定を行い比較した弁別妥当性は、尺度全体で有意差がなかった。

3 信頼性の検討

尺度の安定性について2回の回答結果の相関係数は、尺度総得点に強い正の相関を示し、各因子においても中等度の相関を示した。

内的一貫性については、尺度全体のCronbach's α 信頼性係数は $\alpha=.91$ であった。各因子の値は、 $\alpha=.70\sim.87$ であることを確認した。

IV 考察

本研究の結果から、4因子16項目はモデル適合度を有し、一定の信頼性と妥当性のある尺度であることが支持された。本尺度は、緊急に判断を迫られる時間性や重症度、医療依存度などの急性重症患者に特徴的な項目で構成し、倫理的感受性によって動機づけられた行動としての実践を測定するオリジナルの尺度であると考えられる。本尺度は得点が高いほど倫理的感受性を備えた実践頻度が高いことを示すが、状況特定のため実践の機会に遭遇する頻度により得点の高低が変化することに注意を要す。経験年数にかかわらず測定できる可能性があり、自身

の実践を省察する指標として活用でき、意識的な倫理実践を導くきっかけとなることが期待される。

V 結論

急性重症患者をケアする看護師の倫理的感受性を備えた実践尺度は、探索的因子分析により4因子16項目から構成され、確認的因子分析によって構造的側面から一定程度の妥当性を確認した。外的側面において弁別妥当性と併存妥当性による基準関連妥当性を確認した。安定性およびCronbach's α 係数による内的一貫性を確認し、信頼性を確保した。

研究成果

学会発表

1. 岩井真奈美 急性重症患者をケアする看護師の倫理的感受性を備えた実践尺度の信頼性・妥当性の検証 日本看護研究学会第51回学術集会(2025年8月30日)石川 最優秀演題賞(口演)

本研究は、公益財団法人木村看護教育振興財団2023年度看護研究助成を受けて実施した。